

高まる QOL 向上への強い要望が、歯科診療への要求や期待にも影響を与えています。

そんな中、筆者は日常の診療において、患者の満足度に関わる歯冠補綴のマージン部形成に強いストレスを感じていました。

しかし、Piezosurgery®touch にて使用するクラウンプレップ用チップとの出会いにより、大きな安心感を得る事が出来ました。

クラウンプレップ用チップは、ダイヤモンドバー等による支台歯形成の後、マージン部の最終仕上げ時に使用します。Piezosurgery®で用いるため、回転による圧排コードの巻き込みもなく、軽いタッチでの操作となるため、大胆かつ繊細にマージンを形成できます。

また、これも Piezosurgery® の特性ですが、軟組織へのダメージも最小限に抑えることができ、マージン部形成時の出血との戦いからも解放されます。

使用の際、チップを歯に強く当てると熱を帯びます。軽いタッチでの使用でも十分滑らかな形成面を得られま

すので、力の加え方に注意します。また、肉眼だけでなくマイクロスコープでの確認により、より理想のマージン形成を実現させます。

筆者がクラウンプレップ用チップを使用したマージン形成を行うようになって、歯科技工士さんからこんな声もいただいています。

「クラウンプレップ用チップを使用され始めてから、以前に比べて形成ラインが明らかに滑らかでフラットになり、歯質と歯肉粘膜の確認がずいぶん容易になりました。その結果トリミング時の負担が軽減され、とても助かっています。」(トータルセラミックコーポレーション 代表 松本真司氏)

筆者は診療コンセプトとして「最小限のダメージで完成度の高い治療」を目指しており、このテクニックもミニマルインターベンションの一つとして満足のいくもので、患者満足度にも大きく影響していると思います。

今後も、Piezosurgery® の新しい用途の開発が益々進むことを期待してやみません。

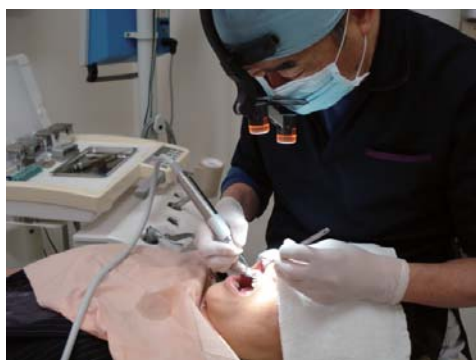


図1. Piezosurgery®による支台歯形成のマージン仕上げ。マイクロスコープによる確認で、より精度の高い形成を行う。

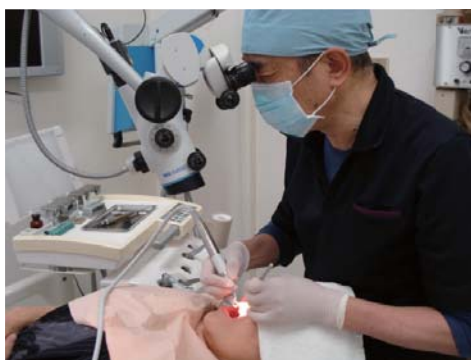


図2. Piezosurgery®touchと専用チップ。

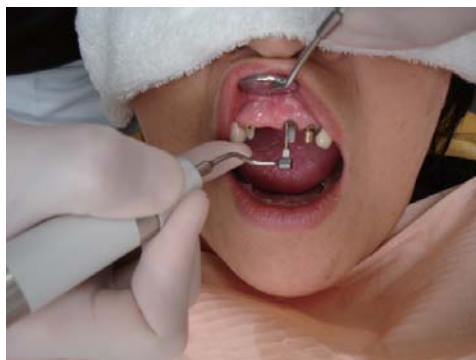


図3. 歯肉縁下での形成も、出血が抑えられている。

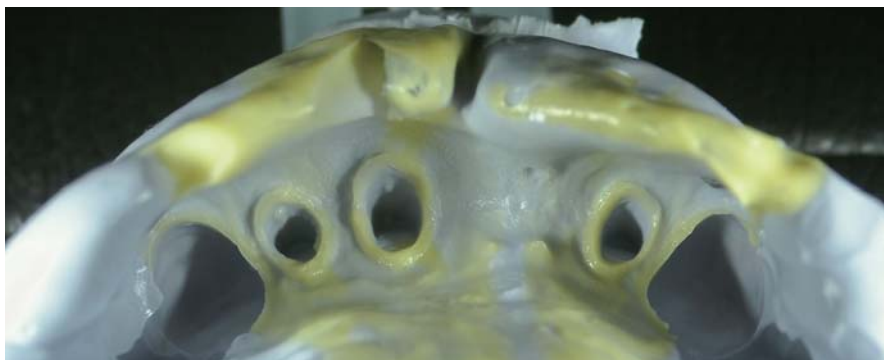


図4. 形成後の印象。理想に近いマージン形成が行えた。また、軟組織へのダメージを抑えているため、即日印象が可能となった。